

日本早期認知症学会誌 投稿規定と執筆要項

Ver 2. 2013 年 10 月 20 日改正

Ver.3. 2017 年 3 月 3 日改正

Ver.4. 2017 年 7 月 6 日改正

本誌は、日本早期認知症学会の機関紙であり、認知症の基礎的研究、臨床的研究に関する論文を広く掲載する。特に“早期認知症”に重きを置き、認知症の早期診断のための検査法・治療法の開発、予防法の考案と普及、看護、保健衛生、介護福祉等に関する論文を掲載する。本誌の英文雑誌名を **Journal of Japan Society for Early Stage of Dementia (JJESD)** とする。

I. 投稿規定

1. 投稿者の資格

本誌への投稿論文の筆頭著者は本学会会員（正会員、学生会員）でなければならない。共同著者も会員であることが望ましい。共同著者数の制限はしないが、論文内容に共同の責任を負える者に限られる。本学会会員以外からの投稿であっても、本学会の活動に賛同されている論文である場合には、編集委員会の判断の下で査読を受けることができる。（非会員からの投稿論文の査読には査読料*が発生する）筆頭著者は査読の結果、論文が受理されるまでに入会の手続きを終了することとする。編集委員会が依頼する原稿はこの限りではない。

*非会員からの論文査読料：1 論文あたり 20,000 円とする。

2. 原稿の種類と内容

対象とする原稿のカテゴリーは、原著、総説、解説論文、報告（症例報告、技術報告、実践報告）、研究速報、資料、最新情報、Letter to Editor、その他である。

- (1) 原著 (Original article)： 独創性に富み 目的、対象と方法、倫理的配慮、結果、考察、結論等の順に記載された明確な研究論文で、他に未発表であるもの。
- (2) 総説 (Review)： 一定の視点、論点を有する総合的な解説論文で、時代のトピックスを反映するものや、教育的な内容も歓迎する。
- (3) 解説論文(Descriptive article): 早期認知症に関する特定のテーマについての知見を解説・論述したもの。

(4) 報告（症例報告、技術報告、実践報告）

症例報告（Case report）： 早期認知症に関係する興味ある臨床症例であり、他に未発表であるもの。

技術報告（Technical note）： 早期認知症に関係する新しい装置、技術、製品の開発などに関する論文で、他に未発表であるもの。

実践報告(Practical report)：早期認知症の実践事例のうち、新規性があるなど紹介することが早期認知症の理解対応に寄与し、会員の参考になるもの。

(5) 研究速報（Rapid communication）： 独創的な研究、工夫、仮説などを内容とし、早急に発表する必要のある研究論文で、他に未発表であるもの。

(6) 資料（data）：早期認知症に関するデータや提案など紹介し、早期認知症に関する理解・対応に寄与し参考になるもの。

(7) 最新情報（Update Information）：早期認知症および認知症全般に関する最新の知見を論述したもの。

(8) Letter to Editor: 臨床上また研究上において経験した新しい内容、著者・会員からの質問・意見等。

(9) その他: 学会における各「委員会報告」、次回大会などの News Letter など、編集委員会が必要と認めたもの

3. 倫理的配慮

投稿論文は基礎的研究、臨床的研究ならびに症例報告等のいずれにおいても、生命及び患者への十分な倫理的配慮がなされたものであることが必要であり、その旨を明記する。投稿論文は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）に則るものとする。

4. 投稿原稿の採否

投稿原稿、推薦論文は受付後、速やかに編集委員並びに委嘱された査読員により査読が行われる。その結果、本誌投稿規定と編集方針に従い、原稿の加筆・修正が必要となる場合がある。依頼原稿における査読は、本誌投稿規定と必要最小限の範囲で実施する。推薦論文は通常の査読を行う。論文の採否は編集委員会において決定する。

5. 著者校正

著者校正は1回限りとする。その際、誤植以外の修正、図版の修正は認められない。

6. 著作権

日本早期認知症学会誌に掲載された論文（図・表・写真を含む）の著作権および出版権（翻訳権・翻案権等二次的著作物の創作権、および二次的著作物の利用に関する権利、ならびに電子的使用を含む）は本会に属する。国内・国外を問わず、他誌に掲載された内容、

または掲載予定のもの、自らあるいは第三者のホームページに掲載または予定の内容は採用しない。

7. 引用・転載の許諾

他著作物からの引用・転載については、本文又は図表説明文 (legends) 中に、原著者名および出典を明記するとともに、著作権保護のため、原出版社および原著者の許諾が必要である。著者は投稿時にその許可を得ておくこと。また本学会誌からの原文、もしくは修正を加えた引用・転載には事前に許諾が必要であり、事前に直接当学会事務局に問い合わせること。

8. 利益相反 (COI)

筆頭著者は、論文本文末 (文献の前) に論文に関する利益相反状態を明記すること。共同著者は、論文投稿時に本規定末の共著者用の利益相反自己申告書テンプレートに記載し、筆頭著者が一括して投稿票とともに本学会宛に提出すること。

記載例：

筆頭著者に開示すべき COI がない場合

本論文に関して開示すべき COI はありません。

筆頭著者に開示すべき COI がある場合

筆頭著者〇〇〇〇は昨年 1～12 月に本論文に関する開示すべき COI は下記のとおりです。

A 社、B 社より寄付金 (年間合計 200 万以上)

C 社 より講演料 (年間合計 100 万円以上)

共同著者用の利益相反自己申告書

氏名 〇〇〇〇 (所属：△△大学△△学部△△科) は、

1. 本論文に関して開示すべき COI はありません。
2. 昨年 1～12 月に本論文に関する開示すべき COI は下記のとおりです。
A 社、B 社より寄付金 (年間合計 200 万以上)
C 社 より講演料 (年間合計 100 万円以上)

9. 超過課金

規定ページ内の原稿は採用に際し、掲載料は発生しない。超過ページは1頁あたり10,000円、カラー印刷は掲載予定雑誌内の全頁量に応じた課金となる。超過料金は、判明次第、あらかじめ編集委員会もしくは学会事務局から著者宛に連絡し、著者の了解を得るものとする。

10. 別刷

別刷は有償（実費）とし、代金は別途定める。投稿時に投稿票に50部単位で記入し、学会事務局にあらかじめ申し込むものとする。

11. 投稿原稿の撤回

審査中の投稿原稿が訂正などのために著者の手許に返されたまま3ヶ月を経過した場合には、原則としてその投稿は撤回されたものとみなす。また、著者がやむを得ない事情で、すでに印刷に回った論文などを撤回した場合には、著者はその実費を全て負担しなければならない。

12. 投稿方法と送付先

電子投稿のみとする（投稿票送付先は下記）：ワード（WORD）形式の原稿とする。原稿名として「筆頭著者氏名 本原稿」と記入すること。投稿時には本原稿の他、査読用原稿として、著者名・所属名の箇所を削除した原稿（原稿名に「筆頭著者氏名 査読用原稿」と記入）を併せて送付すること。

emailによる投稿原稿が判読不能の時は、事務局から郵送による投稿（CD、USBメモリ一等、電子媒体に記録した上記ファイルおよび紙媒体のコピー）を別途求める場合がある。郵送された媒体は掲載の有無にかかわらず返却しない。

投稿票は、本誌またはホームページより、コピーまたはダウンロードし、チェックリストの確認も含めて必要事項を記入後、別途 email または郵送にて送付すること。投稿票が送付されない原稿は受理しない。

原稿送付先： 日本早期認知症学会誌編集委員会 宛
email: jsed@zfhv.ftbb.net

投稿票送付先：〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル
(株)ワールドプランニング内 日本早期認知症学会事務局 宛
Tel: 03-5206-7431

II. 執筆要項

投稿原稿および依頼原稿は、下記の執筆要項に則って作成する。原稿提出時には、そのまま掲載される完成型（カメラレディ、camera ready）になっていること。

（本要項末の投稿見本を参照）。

1. 原稿の長さ と 掲載時 ページ数

投稿の種類	刷り上りの頁数	表紙頁を除く本文頁の目安文字数
原著・総説・解説論文	10 頁以内	13500 字
研究速報・最新情報・資料	6 頁以内	7500 字
症例報告・技術報告・実践報告	8 頁以内	10500 字
Letter to Editor	1 頁	1500 字
委員会報告など	4 頁以内	5500 字

刷り上がり 1 頁は、1500 字程度に相当する。

図・表・写真は 1 点につき、本文を 400 字減じて調整すること。

2. 原稿の形式

A) 原著、総説、解説論文、研究速報、症例報告、技術報告の原稿は、下記の形式で執筆する。

1) タイトルページ

原稿用紙第 1 ページ目の 5 行目より、下記の要領に従って和文表題、和文著者名、英文表題、英文著者名、和文抄録、英文抄録、Key Words、和文・英文所属機関名称の順に記載する。

スペース	14 ポイント (太字MSゴシック) 行間 0 で 4 行あけ、5 行目に和文表題名を記す。
和文表題名	14 ポイント (太字MSゴシック), 最大 2 行、和文副題は 12 ポイント (太字MSゴシック), 最大 2 行
スペース	11 ポイント (MS明朝) で 1 行あける。
和文著者名	11 ポイント (MS明朝), 所属が異なるときは上付 1] 2]・・・を付与しページ下部に明示, 著者間にカンマ不要。
スペース	11 ポイント (MS明朝) で 1 行あける。
英文表題名	12 ポイント (太字 Times New Roman)
スペース	11 ポイント (MS明朝) で 1 行あける。
英文著者名	11 ポイント (Times New Roman), 所属が異なるときは上付 1] 2]・・・を付与しページ下部に明示, 著者間にカンマ不要。

スペース	11 ポイント (MS明朝) で1行あける。
和文抄録	「抄 録」(10.5 ポイント太字 MS 明朝) を行頭に配し、本文 (9 ポイント、MS明朝、ただし 英数字は Times New Roman 9 ポイント) は、「抄 録」の次に半角スペースを入れ、続けて同じ行に記述する。和文抄録は 600 文字以内とし、目的、対象と方法、結果、結論の 4 パラグラフに分けて記述する。目的、対象と方法、結果、結論の小タイトルは 9 ポイントMS明朝 (太文字) とし、「:」の次から記載する。
スペース	11 ポイント (MS明朝) で1行あける。
英文抄録	「Abstract」(10.5 ポイント太字 Times New Roman) を行頭に配し、本文 (10 ポイント Times New Roman) は、「Abstract」の次に半角スペースを入れ、続けて同じ行に記述する。英文抄録は 250 語以内とし、Objective, Methods, Results, Conclusions の 4 パラグラフに分けて記述する。Objective, Methods, Results, Conclusions の小タイトルは 10 ポイント Times New Roman (太文字) とし、「:」の次から各パラグラフを記載する。
スペース	11 ポイント (MS明朝) で1行あける。
キーワード	Key Words: (10.5 ポイント太字 Times New Roman) を行頭に配す。続いて半角スペースを空け、日本語 (10.5 ポイントMS明朝) 又は英語 (10.5 ポイント Times New Roman) で5語まで。各 Key Word 間は、半角カンマを入れる。
スペース	11 ポイント (MS明朝) で2行あける。ここまでは、1段組、左右均等割配置。 ここに大きなスペースが生ずるときは、本文をここから書きはじめてもよい。
所属上割線	左右均等配置となる割線 (実線 1 ポイント) をひく。
和文所属	10 ポイント (MS明朝)、所属が複数のときは1]2]で明示、所属間をカンマできる。
英文所属	10 ポイント (Times New Roman)、所属が複数のときは1]2]で明示、所属間をカンマできる。

○抄録の記入凡例

【抄録】 目的：Xe-CTにより測定した脳血流量(CBF)、及びλ値と・・・・・・・・によるDα値との関係を評価した。対象と方法：認知症患者24例に対してXe-CT検査と・・・・・・・・を行い・・・・・・・・

を用いて、統計学的に検討した。**結果**：Xe-CTにより軽・中・重度に分類された3群間と・・・CBFには有意差はなかった。しかしλ値は認知機能障害の程度に応じ増加した。**結論**：λ値の変化は・・・・・・とある程度の相関がある可能性が示唆された。

[Abstract] **Objective:** The aim of this study was to assess the relationship between cerebral blood flow (CBF), . . . determined by a xenon CT (Xe-CT). **Methods:** Twenty four dementia patients were classified . . . and determined by and corona radiate. **Results:** There are no significant differences in CBF and However, . . . increase according to degree of brain dysfunction. **Conclusions:** It was suggested that λ values may reflect change of cognitive impairment in early dementia.

2) 本文

本文は横書き2段組み構成とする。臨床研究に関する原著、症例報告、研究速報の対象の所属、研究期間等は「2. 対象と方法」に明記する。図・表・写真は本文を補うものとし、下記の例を参考に効果的なレイアウトで作成し、本文原稿の適切な位置に挿入する。写真も図に準ずる。

活字	明朝，10.5ポイント、ただし、英数字はTimes New Roman 10.5ポイント
見出しの付け方	章の見出しは、1. はじめに、2. 対象と方法、 3. 倫理的配慮、4. 結果、 5. 考察、 6. 結論、 謝辞、参考文献と番号を付け、行の中央に書く。字体は10.5ポイント太文字MS明朝とする。 節・項の見出しは、2.1、 2.2.1、 . . .と番号を付ける。
文章	「である」調、句読点としては全角「、」「。」を使用する。語句はできるだけ日本語を用い、やむをえない場合はカタカナ書きとする。
図・表・写真	図・表にはタイトル（キャプション）を記載する（下記詳細参照）。タイトル（キャプション）の字体は明朝体太字10.5ポイント、英文字はTimes New Roman 10.5ポイントとする。色調はモノクロを原則とするが、カラーが必用な場合はその費用は全て著者負担とする。費用は事前に編集委員会あてに照会することが望ましい。
参考文献	AMA形式に準ずる（下記詳細参照）。

英文論文も受け付ける。

Original article, Review, Descriptive article:

Abstract、本文ダブルスペース 15 枚以内。（文字 10.5 ポイント Times New

Roman)。Abstract の形式は和文論文の投稿規定に準ずる。本文の形式は、Introduction, Methods, Results, Discussion, Conclusions, Acknowledgements, References. 小タイトルは12ポイント Times New Roman (太文字)。References は和文論文の規定に準ずる。表・図・写真 8点以内 (legends は和文論文の投稿規定に準ずる)。

Rapid communication, data, Update Information

Abstract、本文ダブルスペース 8 枚以内。小タイトルは随時可。

Case report , Technical note, Practical report:

Abstract、本文ダブルスペース 10 枚以内。形式は Original article に準ずる。

Letter to Editor： 本文ダブルスペース枚 4 以内。表・図・写真 2 点以内。(legend は和文論文の投稿規定に準ずる)。

○図の記載例

- ・ 図タイトルは内容を説明する簡潔明瞭な表記とし、図下部に記載する。表記は日本文または英文のいずれかとし、図の番号は図 1、図 2・・・または Fig. 1、Fig. 2・・・などの通し番号とする。
- ・ 軸には明瞭に名前をつけ、測定値の単位を明示する。
- ・ 図中に統計学的に有意な点を示す場合等、必要な図注は図の下に記載する。

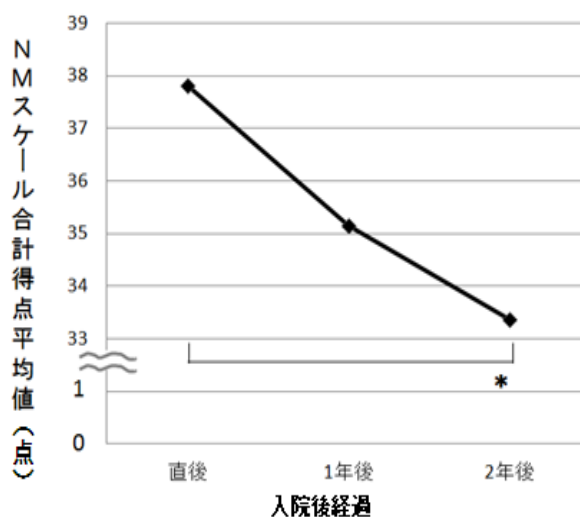


図1 NMスケール合計得点の変化

N=33, * Wilcoxonの符号付き順位和検定 $p < .017$ (Bonferroniの補正)

○表の記載例

- ・ 表タイトルは簡潔明瞭な表記とし、表上部に記載する。表記は日本文または英文のいずれかとし、表の番号は表 1、表 2・・・

表1 NMスケール合計得点の変化

N=33					
期間	中央値	IQR	z値	p値	
1年後 - 入居直後	-2.00	8.50	-2.156	.031	
2年後 - 1年後	-2.00	5.50	-1.731	.084	
2年後 - 入居直後	-4.00	10.00	-2.836	.005*	

Wilcoxonの符号付き順位和検定 * $p < .017$ (Bonferroniの補正)

IQR: interquartile range

または Table 1、Table 2・・・などの通し番号とする。

- ・表の見出しはその下の項目を特定する。
- ・表の罫線は必要な横線のみとし縦罫線は使用せず空白を置く。
- ・表注は表の直下に記載する。

3) 参考文献

- (1) 本文中では、引用順に文献番号を著者または引用文の右肩に付記する。句読点「、」と終止点「。」の内側、およびコロン「:」とセミコロン「;」の内側に、上付きのアラビア数字 (MS 明朝, 10.5 ポイント) をつける。
- (2) 引用した文献は本文における引用順に、本文の最後に、**参考文献** として一括列挙する。文献の著者名と数に関し、3 名以下の場合は全員を記載し、4 名以上の場合には初めの 3 名を記載、他の著者は「他」あるいは「et al.」とする。引用法は基本的には AMA style (JAMA 1997; 277:927-34) に準ずる。

本文末に列挙された文献リストでは、通し番号にピリオッドを付け、半角スペースを入れた後、和文文献は MS 明朝, 10.5 ポイント、英文論文は Times New Roman 10.5 ポイントで記入。英文論文の引用では、論文タイトルの一文字と固有名詞の頭一文字のみを大文字とし、他は小文字とする。引用雑誌の略称はインデックス・メディクス(List of Journals Indexed in Index Medicus)を用いる。

文献リストの引用文献番号は MS 明朝 10.5 ポイントとし、引用文献 1-9 までは、半角スペース 半角番号 半角ピリオッドを入れ、続いてスペースなしで著者名を記述する。各引用文献の 2 行目以降は、1 行目の著者名の左端にタブを設定して記入を開始する。引用文献が英文の場合にも、リストの引用番号は MS 明朝 10.5 フォントとする。引用文献番号の記入は本要項末の投稿見本を参照のこと。

○引用文献の記載例

・本文中の凡例

糖尿病は、足の潰瘍の大きな危険因子として関与している¹⁻³。

幾つかの外科的手術は、compliance を増やすことに成功した^{11,14-16}。

Smith T 他¹⁸のデータは、これらの根拠となっている。

以前に報告されているように^{1,3-6}、われわれは・・・

結果は以下のようであった⁴：

・本文末一覧リストの凡例

①雑誌の論文を引用

[著者が1名の時]

1. 森松光紀. 大脳皮質基底核変性症 (CBD) について. 医療 2005;59(9):455-60.

[著者が3名以上の時] 著者3名までとし、それより多い場合は、「他 (et al.)」で省略する:

2. 北岡哲子, 宇治橋貞幸, 工藤千秋 他. 認知症患者の表情に現れる特徴の抽出法に関する研究. 日本早期認知症学会誌 2013;6(1): 71-77.

3. Geller AC, Venna S, Prout M, et al. Should the skin cancer examination be taught in medical school. *Arch Dermatol.* 2002;138(9):1201-1203.

[研究グループが筆頭者である論文の引用]

4. The Euro Guidelines Group for HIV resistance. Clinical and laboratory guidelines for the use of HIV-1 drug resistance testing as part of treatment management: recommendation for the European setting. *AIDS.* 2001;15(3): 309-20.

[学会抄録を引用する時]

5. 大田恵美子、長坂高村、新藤和雅 他. ニューロフェリチノパチーの1家系. 第48回日本神経学会抄録集. 東京. 9. 8-10. 1. 2005.

[電子文献 doiをもつ論文の引用]

6. Gage BF, Fihn SD, White RH. Management and dosing of warfarin therapy. *The American Journal of Medicine.* 2000;109(6):481-488. doi:10.1016/S0002-9343(00)00545-3.

[電子文献 doiをもたない論文の引用]

7. Aggleton JP. Understanding anterograde amnesia: disconnections and hidden lesions. *Q J Exp Psychol.* 2008;61(10):1441-1471. <http://search.ebscohost.com/login.aspx?direct=true&db=pbh&AN=34168185&site=ehost-live> Accessed March 18, 2010.
8. 独立行政法人福祉医療機構. 介護事業者情報. <http://www.wam.go.jp/kaigo/>. 11月5日, 2011

②単行本からの引用

[個人又は複数の著者・訳者の時]

9. Smith SF, Duell DJ, Martin BC et al. (河原礼子、山内豊明、山田友恵他訳). 看護技術一目で見る辞典. 初版. 東京：西村書店：2006.

[章を引用する]

10. 松井真. 髄液の免疫モニタリング. in 田中正美, 湯浅龍彦編. 21世紀の免疫学. 東京：医歯薬出版. 2001：22-6.

[会議録あるいは報告書全体を引用する時]

11. 川合充編. 筋ジストロフィーとリスク・クライシス管理. 厚生省精神・神経疾患研究委託費. 筋ジストロフィー患者のケアシステムに関する総合研究「リスク管理とネットワーク」分化会. 2000.

B) その他の原稿の形式

(1) 「最新情報」「実践報告」「資料」の記載方法

英文表題、英文著者名、英文抄録、英文所属は不要であり、他は原著原稿等に準ずる。

(2) 「Letter to Editor」の記載方法 (本要項末の投稿見本を参照)

①タイトル：MS 明朝 10.5 ポイント 太文字で2行以内

②本文：横書き2段組み構成とする。手紙様式の巻頭語で始まり、“ですます調”とする。研究内容的な場合には、序文、方法、結果、考察を考慮した構成内容とする。質問の場合はこの限りではない。

③ 図・表・写真、参考文献：原著等に準ずる

④氏名、所属：本文の最後に氏名を記し、所属を番号)を右上に付ける。連名時は、句読点は不要。氏名の下に番号)を列挙する。英文表題、英文著者名、英文抄録、英文所属は不要である。

(3) 「委員会報告」その他の原稿の記載方法

和文表題名は14ポイント(太字MSゴシック)、最大2行、和文副題は12ポイント(太字MSゴシック)、最大2行とするが、本文の記載方法は定めない。英文表題、英文著者名、英文抄録、英文所属は不要である。